

Q1 様々な教育活動を実践しているため、生徒が忙しそうに感じます。

A1 学校生活のペースをつかむまでは大変かもしれませんが、自分のペースを徐々につかんでくると充実した学校生活を送れるよう、教職員一丸となって生徒たちをサポートする体制を築いております。

Q2 授業等についていけない場合のフォロー体制を知りたい。

A2 通常時から、授業後や放課後に生徒からの質問は各教科で受け付けています。また、放課後には卒業生がチューターとして質問に応じています。他にも、定期考査前の補習や、長期休業中の習熟度別講習も行っています。

Q3 道徳教育について知りたい。

A3 本校の道徳教育において、以下の4点を重点目標にしています。

- 1 自主的に考え行動する態度を養い、自律性を育成する。
- 2 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場を尊重し、助け合う心を育成する。
- 3 生命の尊さを知り、自他の生命を尊重する心を育成する。
- 4 社会生活を送るうえで人間として持つべき規範意識を身につける。

上記の目標を達成するために、1年生から3年生までの発達段階に応じて学年の重点目標を設定し、「道徳」の授業に加え、各教科・特別活動等を通じて本校生徒の道徳性を養っています。

11月に道徳地区公開講座を行い、保護者や都民の皆様から授業について御意見をいただく機会も設けています。

Q4 応募資格について知りたい。

A4 令和3年6月10日付の東京都教育委員会HPに「令和4年度 東京都立中等教育学校及び東京都立中学校入学者決定に関する実施要綱・同細目」（3 応募資格）が掲載されております。御確認いただき、不明な点があれば本校や東京都教育委員会へ問い合わせください。

Q5 進学先の文系と理系の比率を知りたい。

A5 経年の変化はありますので、おおよそ文系55～60パーセント、理系40～45パーセント程度です。

Q6 時差登校中の授業時間を知りたい。

A6 45分×6時間の授業を行っています。

参考までに今年度の時間割です。

- 9：25～ 朝読書
- 9：35～ 朝学活
- 9：50～10：35 1時間目
- 10：45～11：30 2時間目
- 11：40～12：25 3時間目  
(給食・昼休み)
- 13：20～14：05 4時間目
- 14：15～15：00 5時間目
- 15：10～15：55 6時間目

16:00～16:10 終学活

16:10～16:20 清掃

※前期課程の生徒は放課後18時完全下校です。

Q7 独自の探究テキストについて知りたい。

A7 令和元年度に文部科学省からWWL構築支援事業の拠点校として指定を受けたのをきっかけにこれまで培ってきた探究活動のテキストの作成に取り組み、令和2年度末に完成しました。テキストは全4冊で構成されています。今年度「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」の授業で活用しています。

Q8 学校の学習だけで、英語力を身に付けることができますか。

A8 塾に通わずに、授業や部活動等、様々な活動をしている生徒も多く在籍しています。本校の英語教育としては、ALTを活用した英会話の授業、JETによる日常的に英語を用いた会話、放課後の英語に関する講座などを通じて英語をツールとして活用できる力を身に付けていきます。また、大学入試の要の教科として授業の中で対策を組んで対応しています。定期考査にもリスニングテストを含み、外部試験として、本校はGTECを採用しています。

Q9 学校として、短～中期的に強化していきたい施策を知りたい。

A9 本校の教育活動の幹は探究活動です。現在の情勢を踏まえ、オンラインと実際の活動を融合したハイブリッド型の活動を推進し、国内外の大学や研究機関等との連携をさらに強固なものにして効率的で効果的な探究活動を実践することを目指しています。

Q10 教育活動について他校との違いを教えてください。

A10 今では全国的に総合の授業は「探究活動」となりましたが、本校は開設以来、都立学校の中では「FW（フィールドワーク）の南多摩」と謳っているとおり、「探究活動」を軸にした進学指導・キャリア指導を行って来ました。それらの実績を基に、現在、本校は中高一貫校で唯一、WWLコンソーシアム構築支援事業拠点校として指定されています。この事業を通じて、①探究活動を通じた生徒のキャリア形成、②リーダーとして世界で活躍するイノベティブなグローバル人材の育成、を目指しています。授業や特別活動などを中心とした学校活動に加えて、WWL事業の拠点校であることで、「探究活動」を軸として他校にはない多様な教育活動を通して、生徒の資質・能力の向上に努めています。生徒が様々なコンテストや大会で挑戦をする機会があり、この点も本校の特色となっています。

Q11 6年間の一貫教育の欠点がありますか。

A11 いわゆる高校受験をすることがないため、6年間の長いスパンでの学びはペースをつかむことが難しいと考えられます。そのため、本校では3年次に後期課程に向けて接続テストを実施することで、前期課程での到達目標を設定しております。また、実際を受験のように合格ラインが設定され、達成できなかった場合はクリアテストによって後期課程に必要な学力を確保できるようフォローする体制も整えております。このように前期課程の3年生から後期課程4年生への接続期を大切にして策を講じているので、5年生での中だるみは一切見られません。

Q12 フィールドワーク活動について、具体的な内容を知りたい。

A12 フィールドワークの活動について、学年別に具体的な説明をいたします。

1年では目標設定を「明らかにする」とした「地域調査」を行います。多摩地区の歴史・文化・自然・産業などの中から興味を持てるものを見つけ、グループで現地探索・調査を行います。身近な場所の探索と地域の方々との交流を通してフィールドワーク活動の基礎を身に付け、効果的なプレゼンテーションの仕方を学びます。

2年では目標設定を「探る」とした「モノ語り」を行います。東京都内で作られているモノを6視点から探り、グループで検証します。人の想いがこめられた『モノ』に着目。伝統工芸品から身近なモノまで、その歴史や文化などから創意工夫を学び、冊子・ポスター作りを行います。

3年では目標設定を「確かめる」とした科学的検証活動を行います。事実や真実とされる事物について疑問を見つけ、グループで調査・探究を行います。科学的解決を目指して、既に示された方法や手法を用いて確かめ、実験検証していきます。

4年では目標設定を「研究する」とした「ライフワークプロジェクト（LWP）」を行い始めます。自分はどんな世界で生きたいのか。未来に向けて、ゼミでの先生や仲間との活発な議論を糧としながらライフワークとなる良い対象を探します。「もしかすると、こうではないか？」という自分の着想を大切にし仮説の「か？」を取り払うための妥当かつ可能な検証方法を練り、探究を深めます。

5年では目標設定を「著す」とした「ライフワークプロジェクト」を完成させていきます。これまで積み上げてきたことを、4000字の論文にまとめます。優れた論文は南多摩論集としてまとめ、図書館で下級生が閲覧できるようにしています。

Q13 普通の成績の普通の生徒がどのような生活をしているのか知りたい。

A13 本校の探究活動を軸とした教育活動により、生徒は6年間で大きく成長していきます。ただし、決して順風満帆ではありません。本校での教育活動を通じて、まだ見ぬ社会や世界を体験しつつ、前進後退しながら自分の進路を探し出し、実現しようと努力しています。それが自然にできるようになるのが南多摩です。6年間のシラバスを意図的・計画的に実施し、心・知・体の調和から生まれる人間力を育成していきます。

Q14 授業風景や行事、部活動等での普段の生徒の姿を見たいです。

A14 本校HPの「南多摩トピック」では、日々の生徒の様子等も紹介しております。過去の様子も掲載しておりますので御覧下さい。また、「WWL」をクリックしていただくと、これまでのWWL事業に関する全ての取組を確認できます。

Q15 発表された生徒のように課外活動に参加している生徒数を知りたい。

A15 WWL事業の取組に参加している、ということですが、学年活動として全員参加している講演会等もあります。これらの事業は全生徒（学年毎に）を対象とするもの、希望する生徒を対象にするものに分け、効果的に取組を進めています。また、希望制で参加している取組では、各学年で2～3割の生徒が参加しています。

Q16 理数教育について具体的な取組を知りたい。

A16 WWLの指定を受け、令和2年度より文理融合のカリキュラムを推進しています。データ分析（3年）、地球探究（4年）、MIE [Mathematics in English]（5年）、Pensee [哲学]（6年）といった文理融合の学校設定科目を設置し、従来の文系・理系に捉われない教育を展開しています。また、STEAM教育として、昨年度はドローン講座、今年度は東京工科大学にSTEAM教育のシリーズ講演を依頼し、1回目は「製菓」について実施し、物理や化学をまだ学んでいない1年生も積極的に参加しました。